



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/18 (月)	+ 200	▲ 21,700	▲ 21,500	国債発行 (5年) 国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 5,700 被災地支援 ▲ 100	被災地支援 + 100	日: 植田総裁、名古屋で挨拶
11/19 (火)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				欧: CPI (10月)
11/20 (水)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	流動性供給 国庫短期証券発行・償還 (1Y)			日: 貿易収支 (10月)
11/21 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	ト				日: 植田総裁、パリで講演 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (11月)
11/22 (金)	ト	▲ 14,000	▲ 14,000	国債発行 (20年)			日: CPI (10月) 米: PMI (11月) 欧: PMI (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,200億円増加の546兆5,400億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行、源泉所得税揚げ等の要因により増減し、15日は546兆2,300億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.226%~0.390%のレンジ、1M物0.290%~0.300%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、21日に植田総裁のパリでの講演、22日にCPI (10月) の公表、

海外では19日にユーロ圏CPI (10月)、22日に米PMI (11月)、ユーロ圏PMI (11月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.35 ~ 0.50
3M	0.35 ~ 0.50
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週初+0.22%~+0.24%のレンジで出が見られた。14日に一時+0.20%を下回る水準で取引されたが、週末には短国の発行も重なり+0.24%近辺まで上昇した。

SC取引は2年460~466回債、5年149~173回債、10年350~376回債、20年180~190回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,500億円で、週間償還額の1兆1,200億円を上回った。発行残高は先週末時点の24兆4,787億円から、11月14日時点で24兆1,830億円に減少した。発行市場は、電気機器、機械、卸売業、建設業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.40%台前半での出会いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、1兆1,000億円となっている。発行市場は、5・10日絡みの発行案件や、月末週へ向けた企業の安定的な調達ニーズから、相応の発行が見込まれる。

発行レートは、12月の日銀決定会合を超えない期間については0.25%近辺での出会いが予想される。また、1M超~3M物の案件については、日銀の政策修正への警戒感から、レート水準を探る展開となるであろう。

<TDB>

15日の3M (1269回債) の入札は、最高落札利回り0.1419% (前回債0.0502%)、平均落札利回り0.1276% (前回債0.0257%) となった。

来週の入札は、19日に1Y、22日に3Mが予定されている。